

トマト畑 から



第7号

あけましておめでとうございます

年末の大雪では、除雪作業や停電対策など、本当に大変でしたね。除雪の機械を持っておられる方、地元の建設会社や、土建業者の方による早朝からの除雪作業、本当にありがたかったです。しかし、今回の雪で町内でも亡くなられた方がいたということ。近所で「道を歩いていたつもりが田んぼの中を歩いていて、身の危険を感じた」といわれる方がいらっしゃいました。命の危険はすぐそばにもありました。今後の対策などさらに気をつけていかなければと思います。今年がみなさまにとっていい年ありますように。私も住みたい町を目指して頑張ります。



軍事大国に舵を切ったか?!

日本は過去の戦争の大きな大きな反省に立って、国際紛争の解決の手段としての戦争を永久に放棄しました。これが憲法9条です。自衛隊は専守防衛に徹することが憲法の下での共通理解となりました。しかし、岸田首相は年末国会が終わるや否や、閣議で敵基地攻撃能力を持つこと、軍事費を今後5年間で4.3兆円に増やすこと(2022年度の軍事費当初予算は5兆4千億円) するために増税することなどを決め、G7の国に報告して廻りました。米国は特に喜び、日本は米軍機の大量購入を約束しました。日本の主権は国民にあります。国民の代表機関の国会にもかけずに行なったことは憲法も民主主義も壊すやり方で、許す訳にはいけません。東南アジア諸国連合「ASEAN」に習い、紛争を戦争にせず、対話と交渉によって解決していくこの枠組みを日本や中国などを含む東アジアに広げていく道を進むべきだと考えます。岸田首相の軍事大国への舵切りは挑発と殺りくと破壊を生み、日本の国民を守ることに繋がらないと思うからです。

18歳までの医療費無料化が実現

大阪府八尾市から久万高原町に移り住み、孫が生まれた時、乳幼児の医療費の窓口負担ゼロということに驚きました。その後中学生までが対象となり久万高原町ってすごいと思っていました。先輩議員の頑張りがあったのだらうと思います。

議員になって7回議会がありました。私は毎議会欠かさず一般質問をしてきました。その内3回、この高校卒業までの医療費無料化を取り上げました。他の議員も一般質問で取り上げ、さらに総務文教厚生常任委員会としてこの課題実現のための、予算要求も準備されていました。このように多くの議員の力が町政を動かしたと思います。なによりも町民の強い要望があったからです。今後もご一緒に声を上げ、住みよい久万高原町をつくっていきましょう。

学校給食費無償を国に求める請願

非正規雇用の増加や物価高騰などにより、子どもの貧困、子育て世代の家計への負担が増えています。憲法で「義務教育は無償とする」とされています。学校給食も義務教育の一環です。今こそ国の責任で無償にすることを求める請願の紹介議員を引き受けました。

「7人に一人の子どもが貧困状態にあると言われていています。自治体も頑張っています。今こそ国の責任で学校給食を無償化することに賛成します。」と賛成討論をしました。反対討論で「給食費が無償となれば、子育て世代が助かるのは自明のことではありますが、多大な財源が必要です。そのため国の責任で議論されるべきで、本町議会が無責任に請願を採択すべきではないと考えます。」との発言がありました。採決が行われ、請願賛成は私一人だけ、不採択となりました。

住民の要求に対して地方自治体ができるものは地方自治体で行い、出来ないものは‘国でやってほしい’と声を届けることは必要なのではないのでしょうか。住民の要求実現は私たちの仕事です。

こんな声聞いたよ

(Aさん) 福祉施設に勤めているが、過重な仕事に体力も気力もついていけない。せめてあと一人、職員を増やしてほしい。

(Bさん) 移住し畜産を営んでいるが、飼料代が値上がりしているのに、売る子牛の値が下がっていて今のままではやっていけない。

(Cさん) 主人がもうすぐ退院するが、歩けないので施設への入所を考えている。が、どこもいっぱい入れないといわれた。年金で入れる施設を作ってもらわないと困る。(松山に下りることも考えていたが、しばらくして町内の施設に入れることになったとのこと。)

(Dさん) 12月末の大雪。数日後も県道12号の除雪が遅く車がのろのろ運転。これを伝えると共産党の田中県議がすぐに県に働きかけ。翌朝通ると、融雪剤がしっかりまかされていた。ともあれ感謝。

12月議会での私の一般質問

◇再生可能エネルギーに係る環境問題の取り組みについて質問しました。

(問) 久万高原町でソーラーパネルの設置が急速に進んでいる。地球温暖化の影響は生命の脅威となっている。化石燃料から再生可能エネルギーへの切り替えは急務だ。しかし、森林が広範囲に伐採され、その傾斜地にパイプを差し込んでいるだけの状態で、台風や豪雨を考える時、昨年熱海市の土砂災害が思い出される。

・このような事業は久万高原町の活性化に繋がるのか。

・脱炭素や環境問題の取り組みは自治体と町民の協力が必要だと思うがどのように進めていくのか。

(町長) 国は2050年までに温室効果ガス実質ゼロを目指している。町はガス排出量とCO₂吸収量を調べている。民間事業者による太陽光発電は、町へ電気が供給されるというような町の活性化に直接繋がるものではない。町としては、公共施設の屋根や屋上への太陽光発電の設置を進め、脱炭素社会への取り組み、活性化、魅力化に繋げたい。また、関係者で組織している「脱炭素に向けたまちづくり専門委員会」があるので、町民の意見も取り入れて協議したい。

(問) 赤蔵ヶ池付近の標高1000メートル近い山頂付近の森林を4、5ヘクタール伐採し、ソーラーパネルを設置している。付近に水路らしきも

のはなく、現場から流れる谷筋の暗渠の多くは詰まっていた。太陽光発電は大切だが、自然破壊や災害に繋がるものであってはいけない。どう対応されるのか。

(環境整備課長) 国も規制の方向を示し、県も規制を強化している。

(問) 町としてどのように規制を強化するのか。久万高原町では「太陽光発電の適切な設置と管理のためのガイドライン」が作られていると聞く、現地ではガイドラインに抵触している部分が見受けられるがどう対応するのか。

(環境整備課長) 抵触しているところは業者に指導したい。

(問) 災害を未然に防ぎ、地域社会を守るためにはガイドラインを遵守させることが重要だ。定期的な見回り、指導をしていただきたい。

(環境整備課長) 林業戦略課とも情報共有し、不当な林地開発防止に努めている。今後も継続して指導監督を行う。

(問) 高原町は再生可能エネルギーの宝庫だと思う。自治体がイニシアティブを発揮し、開発、運営し、地域に雇用を産み、利益が地域に還元できれば地域おこしにとっても再生可能エネルギーは貴重な財産となると思う。このような取り組みをどう思うか。

(環境整備課長) 地域の特性を生かした再生可能エネルギー導入については、町が主体となり、先行地域を目指している。地域おこしに繋がればと考えている。

内子バイオマス発電所を見学して

2022年12月17日(土)「ながえ孝子グリーン革命勉強会」主催の内子バイオマス発電所の見学に行ってきました。最近町内では、全伐(皆伐)する山が多いですが、内子町は育林を大切にしています。それは林業と産業が結びついているからです。未利用材から木質ペレットを作り、小中学校の暖房、温水施設に使われており、さらなる展開として小規模バイオマス発電所を設立しました。久万高原町も大いに見習うべきと考えました。

